

しろくまの新聞コラム問題 小学生のみなさんへ

第二回 問題編

(天声人語より)

停滞前線が列島にからみ、田んぼとカエルが喜ぶ季節が来る。週間予報に傘印は少ないが、思案顔で空を見上げる朝が多くなる。引力の導くまま、不意に落ちてくるのは雨粒に限らない。

水田からどう舞い上がったか、石川県七尾市で「カエルの子」が100匹ほど降ったという。ボタボタという鈍い音に駐車場の男性が振り返ると、オタマジャクシがたくさん落ちていた。80キロ離れた白山市でも、約30匹、別の町では小ブナ約10匹が見つかった。

00年、英国東部でやはり小魚が振り、民家の庭をうめつくしたことがある。海から魚群を吸い上げたのは竜巻だった。竜巻はカエルやカメも降らせるが、石川県の例では考えにくいそうだ。鳥が獲物を吐き出したのかもしれない。

ところかまわず降る物があれば、折り目正しく落ちる物あり。きのう、日本の月探査機かぐやが月面に落下し、役目を終えた。打ち上げて2ヶ月。高精度の月面図や、「満□□」が「□平線」を出入りする映像など、精勤のあれこれを浮かべてご苦労様とつぶやく。

運用チームの最後の仕事は、地球から見える側に落としてやることで、予定通り信号が途絶えると拍手がわいた。月に願いを託った約41万人のメッセージも、(①)の傍(かたわら)に届いたはずだ。

昔人は、想像するしかないものを《②》の月に重ねた。世には想像を絶する未知もまだ多いが、最たるものだった月世界は科学の力でぐんと身近になった。煙る夜のはざまに月がのぞいたら、宝の山のデータを残し、音もなく消えた「働き者」を思い出したい。

問1 この文章を二段に分けるとすると二段目はどこから始まると考えられますか。二段目の最初の三文字を抜き出さない。

()

問2 「満」() () 「」() () 「平線」の「満」() () 「」() () にあてはまる漢字2字と「() () 平線」にあてはまる漢字1字を文章中から選びそれぞれ書きなさい。
「満」() () 「」() () 「平線」

問3 () ① () にあてはまる動物を考えてひらがなで答えなさい。

() ()

問4 ≪ ② ≫ にあてはまるものを次から一つ選びなさい。

ア 昼間 イ 雨夜 ウ 朝霧 エ 日没

問5 文章中最後の一行にある「働き者」とは具体的に何のことをさしているのですか。

() ()

問6 この文章を通じて筆者の述べたかったことを文章中の言葉を用いてまとめなさい。

() ()

最近の「天声人語」からの出題です。よく読んで考えてみてくださいね！

しろくまの新聞コラム問題②の解答 小学生のみなさんへ

問1 ところ

問2 地球・月

問3 うさぎ

問4 イ

問5 月探査機かぐや

問6 (解説みてね)

問1 入試で、よく、段落に分けなさい、という問題あるよね。みんなも模試とかでみたことないかな。段落の分け方のポイントは

☆「天地人」分類

っていう方法がふつうなんだよ。天が変わる、地が変わる、人が変わる…どういうことかというところ

①「時間」の変化

②「例・単語」の変化

③「人」の変化

① 昔はこうでした、今はこうです、過去と現在で分かれる、ということ。説明文や随筆ではけっこうあるんだよね。昔はよかったけど現在はこんなひどいことになっている

みたいな話あるよね。もちろん物語などでもそうです。話の内容にとられすぎて、かんなんな時間の变化を見落とすときがあるので注意。

② これは内容の変化だけれど、いちばんよくあるのが「対比」。アメリカはこうだけど日本はこう： そんな文章みたことあるよね。そういう何について話しているか、というところが変わってしまうと、段落は変わります。それから同じことを言うにしても、「例」が変わると段落を変えましょう。

たとえば、きみが「ケーキが好き」とお母さんやお父さんに言いたいとき、

「駅前のケーキ屋さんのショートケーキおいしんだよ、イチゴがのっけていて生クリームもさいこくで、スポンジもふわふわなんだ」 そうそう、○○デパートで、前におばあちゃんが買ってきてくれたチョコレートケーキ： あれなんかちょっと苦いけど、中のムースが甘くておいしんだよね」

と力説すれば、この話の段落はショートケーキとチョコレートケーキで分かれるよね。例が変わると段落は変わるんだよ。でも、言いたいことは、ケーキがおいしいから大好きって同じだよね。

③ 人の変化： これは物語文などで登場人物が何をするか、誰の思いの説明か、という部分。いつ、だれが、何を、どうした、がセットになっていて、その人そのものが変わっているのは当然段落が変わるんだよね。

さてさて、この問題では、「地」でも読み方によっては「天」でも分かれています。「対比」で「ところかまわず降る物」と「折り目正しく落ちる物」だから二つに分けるなら「ところ：」の部分だよね。

さらに前半を二つに分けるならば、言いたいこと「ところかまわず降る物」の例が分かれるところに注目したらよいのです。

問2 わざわざ「」がついているところ。あのね、単語や語句に「」がついている文章、ときどき見かけるよね。これって筆者の表現テクニックの一つなんだよ。

きみは「かしこい」ねえ」と「」をつけて書いてあると、何か他のメッセージがあると思わない？

そうなんだよ。わざわざ「」をつけるのは、何か「裏のメッセージ」があるんだ、とおぼえておいてね。

わざわざ「カエルの子」と「」をつけています。最初に「たんぼとカエル」の話を出したから、「わざわざ」カエルの子、という表現にして「水田から舞い上がった」話をおもしろく仕立てたんだよね。

最後まで「働き者」と「」をつけています。何か特別なものを、つまり人間ではない物のことだけど、「わざわざ」擬人化して、親しみをこめたり、思いをこめたりしているんだよ。文中では「ご苦労様とつぶやく」ってあるでしょ。これがメッセージなんだよね。

☆「」 つきの単語・用語には裏メッセージがある！

と、おぼえておいてね。

ということとは、ここではもともとフツの表現とは「わざわざ」ちがうことにしているんだよ、なぜなら「月世界」でのことから、フツの表現と逆。「満月」「地平線」は「地球世界」の話でしょ。だから逆転して「満地球」「月平線」と筆者は「」付で書いているんだ。ちょっと気が利いている表現だね。

問3は「うさぎ」。お月さんには「うさぎ」がいるよ、という日本の伝説があるよね。ここでこれを登場させて、ひよっとしたら前段落から出てくる「カエル」「オタマジャクシ」

「カメ」などの「動物つながり」にして「おもしろみ」を出しているのかも知れませんが、なかなかしゃれた表現ですよ。ここに「うさぎ」を使うのは。

問4 「雨夜」です。なかなかこの文章の作者は教養があって、きっとむかしのエッセイスト、兼好法師の「雨が降っていて月が見えないけど、その雲の上の月に思いをめぐらすのも、よいじゃんっ」という話を思い出しているのかもしれないね。でも昔の人の風流がわからなくても、「煙る夜のはざまに」ってあるから夜の月で、雨が降っていてみえない、そのみえない月を想像する、つまり「想像するしかしかたがないもの」を「雨夜の月」にしたんだよね。夜だから月が見えているはずなのに雨でみえない… 想像するしかしかたがない「もどかしさ」も伝えたいのだと思うんだ。「昼間」の月が見えないのはあたりまえだからもどかしさが伝わらないので、ここは「雨夜」がふさわしいよ。

問5 これは先ほど説明しました。擬人化された「月探査機かぐや」がよいよね。前に「宝の山のデータを残し」がついているから「月探査機」という言葉も付けておいてほしいなあ。もちろん擬人化しているから「かぐや」も必要だよ。

問6 随筆は「例」から「筆者の思い」を伝えるもの。

「お刺身読解」といって、お話を魚にたとえて、「身」「骨」「尾ひれ」にわけてみよう。飾りやおまけは尾ひれだから切り取ってしまう、そして身と骨、例と意見にきれいにわけよう。

「どころかまわず降る物」と「折り目正しく落ちる物」の二つの例があるよね。この例に共通する筆者の感想は何か…

「想像絶する未知も多い」でも「科学の力で身近」になった…

このあたりの表現をつかってまとめていけば、しろくまならば○をあげるよ、例から感想、例と筆者の思いを分けることができたなら、魚をおろしておいしいお刺身が食べられました。

(ではまたね)